

令和5年 第6回飯館村議会定例会



令和5年9月議会定例会は、9月1日から15日までの日程で開かれました。一般質問は5日に行われ、村議員が村政の重要な課題等について村側の考えを質しました。議会審議は15日に行われ、提出された議案はすべて原案どおり可決されました。

今議会で可決された議案など

令和5年度
一般会計補正予算

令和5年度介護保険
特別会計補正予算

令和5年度後期高齢者医療
特別会計補正予算

令和4年度飯館村一般会計
及び各特別会計歳入歳出
決算認定について

飯館村税特別措置条例の
一部を改正する条例

農業基盤整備促進事業（飯館
西部その2）農業基盤整備工事
（水路工）前田・八和木地区第
9回工事の工事請負契約につ
いて

紙面の都合上一部省略しています

村長村政報告

産業団地の整備について

少子高齢化が急速に進んでいる村の状況に鑑み、医療・介護を含む村民生活を支えるための「自主財源の確保」、子育て世代・働く世代を中心とする「なりわい人口の増加」は最重要課題であり、「なりわい創出」は喫緊かつ必須の施策です。

この「なりわい創出」に必要な不可欠である産業創出や企業誘致を推進するにあたり、令和4年度の調査結果に基づき、相馬農業高等学校飯館校及びその周辺地区を産業団地整備の最適地と考え、これまで地元住民の皆様をはじめ、県教育庁との協議や、同校の同窓会、関係各所との事前協議を進めてきました。

この結果、地元の皆様、同窓会及び関係各所から一定のご理解をいただき、去る8月28日に「相馬農業高等学校飯館校の活用にかかる要望書」を、県教育委員会教育長に提出しました。

村の発展と振興の歴史に大き

く寄与してきた高等学校の歴史をしっかりと本校に引き継ぎ、新たな村の発展のために敷地等を活用する構想について、今後とも権者・地元行政区の皆様をはじめ関係各所と丁寧な協議を進め、あわせて村民の皆様のご意見を踏まえて、スピード感をもって取り組んでいきます。

■ いたて村の道の駅までい館
平成29年8月12日のオープンから本年7月末までのレジ客数は、まてい館が67万6349人、セブンイレブンが153万45人です。

■ 風の子広場・ドッグラン
ふかや風の子広場の利用者は、本年4月から7月末までで1969人です。

「ドッグランわんこの庭のびのび」の利用は、本年4月から7月末までに195件、254頭です。どちらの施設も大変好評をいただいております、村内外から多くの来場者楽しんでいただいております。

■ 宿泊体験館きこり
本年4月から7月末までの全体利用客数は2919人で、こ

のうち素泊まり宿泊の利用者は244人、入浴施設の利用者は2675人です。

■ あいの沢キャンプ場

令和4年度にモニター利用を開始したオートキャンプ場に加え、今年度はイベント広場にフリーサイトもオープンしました。ファミリーキャンプ、グループキャンプ、ソロキャンプなど様々なスタイルに対応できるようになり、本年7月末までの利用者は1143人です。

■ 村税課税状況

8月1日現在の課税状況は村民税1875件、固定資産税2137件、軽自動車税3552台、国民健康保険税68件、介護保険料63件です。

■ 村民の帰還状況

8月1日現在の村への帰還者は636世帯、1222人で帰還率は約25.8%です。これに、震災後の転入者248人といいたてホームの入所者等を合わせ、村内の居住者は809世帯で1529人です。

避難を継続している方は、県外に157人、福島市に2016人、南相馬市に283人、伊達市に250人、川俣町に235人など、合わせて3056人です。

■ 産業廃棄物中間処理施設整備計画構想

8月4日に関沢行政区長、小宮行政区長、八木沢・音原行政区長が立会人となり、斎藤運輸工業株式会社と「産業廃棄物中間処理施設立地協定書」を締結しました。今後は、この協定書をもとに地域活性化を含めた協議を図っていきます。

■ 新型コロナウイルス接種

今年度の春開始接種は、高齢者基礎疾患のある方、医療・介護等の従事者等が対象で、5月から7月にかけて計5回、村内「いちばん館」で集団接種を実施し、1083人の接種が完了しています。

■ 有害鳥獣減容化施設

8月から本格運用を開始しており、これまで、捕獲した鳥獣9頭を処理しました。1週間程度で大きく分解が進むことが確認で

き、期待した効果が出るものと見込んでいます。引き続き有害鳥獣捕獲実施隊と連携、協力のもと、適正な処理に努めていきます。

■ 木質バイオマス施設等緊急整備事業

7月25日に、県や福島市、南相馬市など被災12市町村を含む近隣市町村の担当者等を招き、交流センター「ふれ愛館」及び蔵平地区の建設予定地にて、事業の説明会及び現場見学会を実施しました。参加者からは様々な質問が出されましたが、特に事業実施を懸念するような声はなかったものと捉えています。また当日は県、関係市町村等で組織する、木質バイオマス発電施設の情報共有等を目的とした協議会を立ち上げた旨の説明も行い、主旨をご理解のうえ、協議会に参加していただけるよう呼び掛けました。

現在、施設は年度内の完成に向け順調に工事が進んでいます。

■ 建設関係

行政区で実施する住民参加型環境保全事業による村道の草刈

りは、15行政区において1回目の草刈りが完了し、今後2回目の草刈りを実施する予定です。その他の路線は、村内業者への委託により草刈りを進めています。また国道道は、県による道路愛護交付金により地元で対応可能な15行政区約109.2kmを実施しています。

村道舗装機能回復工事は、現在10路線、約2.6kmの工事を発注しており、12月末の工事完了を見込んでいます。合わせて村管理の普通河川、17河川においても除草作業を進めており、10月末に完了する予定です。

■ 教育委員会関係

まてい館の里のこども園では、今年度から導入した保育管理システムにより保護者との密な連絡体制が確立され、安心・安全な保育が実施されています。いたて希望の里学園ではタブレットの活用が進んでおり、コロナ過で試行錯誤し構築されてきたオンライン授業や双方向の授業を取り入れながら、様々な授業での活用形態が広がってきています。